

THE SUISHI-NEWS
月刊 水試ニュース
発行所：愛知県水産試験場（本場）
515号 令和元(2019)年6月

藻類貝類養殖技術修練会を開催します

本場 企画普及グループ

水産試験場では、のり養殖業やあさり漁業を営んでいる漁業者の方を対象に、のり養殖とあさり増殖に関する新技術の習得を目的として藻類貝類養殖技術修練会を開催しています。本年度は下記のとおり開催いたしますので、多数のご参加をお待ちしています。

記

- 日時：令和元年7月9日(火)午前10時から午後3時50分まで
- 場所：半田市中心公民館 2階 視聴覚室
半田市雁宿町1-22-1 電話(0569)23-7331
- 講座(講師)：
 - 「平成30年度ノリ流通の概要と今後の見通し」
(愛知県漁連海苔流通センター 業務部次長兼所長 早川 明宏)
 - 「ノリ品種開発と食害試験結果について」
(愛知県水産試験場 漁業生産研究所 栽培漁業グループ 主任研究員 平井 玲)
 - 「兵庫県のノリ漁場における窒素の動態解明と栄養塩の有効利用技術の開発」
(兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター 水産環境部 主席研究員兼研究主幹 原田 和弘)
 - 「平成30年度浄化センターの栄養塩管理試験運転による漁場環境の変化」
(愛知県水産試験場 漁場環境研究部 部長 蒲原 聡)
 - 「県内各地先におけるアサリの減耗と生残及びそれに関わる要因
～アサリを増やすためにできること～」
(愛知県水産試験場 漁業生産研究所 栽培漁業グループ 主任研究員 服部 宏勇)



図1 昨年度の会場の様子

豊川における遡上アユ調査

内水面漁業研究所 冷水魚養殖グループ

当グループでは豊川の牟呂松原頭首工(河口から約25km上流に設置された堰)の魚道で、遡上アユを調査しています。今年は1月から降水量が少ないため河川流量が非常に少なく、遡上への影響が心配されましたが、遡上の初認日は4月15日で例年とほぼ同時期であり、遡上初期に採捕したアユ(図2)の平均体重は6.2gとほぼ平年並みでした(図3)。その後、5月上・中旬は例年より小型のものが遡上していることが分かりました。アユは秋に産卵し、ふ化後すぐに川を下り、冬から春まで海で生活するため、遡上アユの大きさはこの期間の成長によって変わると考えられます。遡上数は国交省中部地方整備局豊橋河川事務所によると、平成25年調査以来最も多かった昨年の337万尾より多いと見込まれています。今後もアユの遡上について調査を進めていきます。



図2 遡上アユ(4月22日採捕)

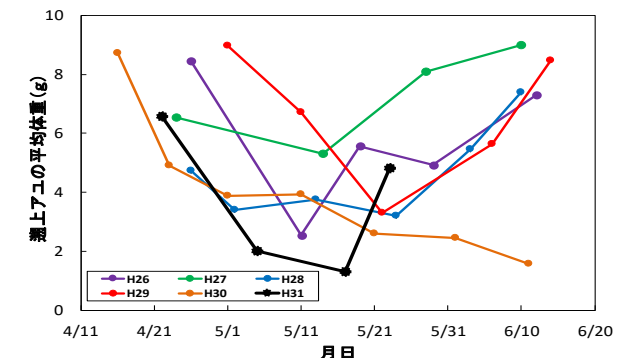


図3 採捕した遡上アユの平均体重

「金魚の学校」を開催します

内水面漁業研究所 観賞魚養殖グループ

夏の風物詩と言えば、「金魚」。水産試験場では、県民の皆様に県の特産品である弥富の金魚について理解を深めていただくため、弥富市及び弥富金魚漁業協同組合と共催で、親子で楽しむ金魚飼育講座「金魚の学校」を開催します。

記

- 日時：令和元年6月22日(土)13:30~15:30
- 場所：弥富市総合社会教育センター中央公民館ホール(弥富市前ヶ須町野方 802-20)
(近鉄名古屋線「弥富駅」下車、南西へ徒歩20分 愛知県埋蔵文化財センターとなり)
- 内容：金魚飼育のポイントや楽しみ方、金魚養殖のはなし、金魚について学ぼう(金魚の歴史と品種、金魚すくいのはなし)、飼育観察用の金魚稚魚の配布
- 定員：親子100組程度
- 申込条件：県内に在住または在勤の保護者と小学生のお子様
- 申込方法：参加される方の氏名(ふりがな)、住所、昼間に連絡のつく電話番号をご記入のうえ、電子メールでお申込みください。メール表題は「金魚の学校応募」でお願いします。
※応募者多数の場合は抽選とします。
- 申込先：電子メール(e-mail: suishi-yatomi@pref.aichi.lg.jp)
- 申込期限：令和元年6月14日(金)

